

特集

膿瘍のようだ。

全身のさまざまな部位に、さまざまな原因で発生し得る、膿瘍。

救急診療の現場でもしばしば遭遇し、場合によっては診断・治療に難渋して重篤な状態に陥ることもある重要な病態です。

本誌『救急医学』でも種々の特集のなかで膿瘍は扱われてきましたが、それそのものをテーマとした特集は数十年にわたり組まれておらず、今回“膿瘍”自体を切り口に特集を企画いたしました。

具体的には、各部位で発生する膿瘍ごとに、その原因や病態、症状、診察・検査の方法、そして初期対応・治療の要点などを、可能な範囲で画像・症例等も掲示いただきながらわかりやすく、そして救急医がしっかりと理解しておくべきことをまとめる、という観点から、各領域の専門家や経験豊富な先生方に解説いただきました。

とくに診断や治療についてはその組み立て方や戦略、例えば「抗菌薬を投与する」や「ドレナージを行う」という表面的・教科書的なところにとどまらず、原因や状況に応じてどのように対応の優先順位をつけるのか、ある手段がとれないときに第二・第三の手段をどうすべきか、といったところまで踏み込んだ、臨床目線の解説となっています。

シンプルなテーマではありますが、この特集を読むことで本誌読者の先生方が自信をもって膿瘍を診断し対応できるような、特集タイトルよろしく「膿瘍のようだ。」で立ち止まらずに適切な対応・治療に踏み出せるような、臨床に直接結びつく1冊です。

ぜひ、明日からのあなたの診療に、役立ててください。